

# いずみのひろば

2023年1月号

日本基督教団教会

NO.528 教会学校



## 馬小屋のイエスさま

ルカによる福音書2章1節-7節

クリスマスは、イエスさまが誕生したことをお祝いするとても喜ばしい日です。聖句カードの絵を見ると、上の方はとても明るくて綺麗な街が描かれています。イルミネーションのようですね。でも下の方は真っ暗で、そこにマリアさんとヨセフさんがいます。イエスさまはこんな暗くて惨めな場所でお生まれになりました。どしてこんな場所でお生まれになったのでしょうか。

聖書にはまず、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に登録せよとの勅令がでたと書いてあります。ローマの王さまが、人々に自分の先祖の街について登録をなさい、と命令をしたのです。ナザレからベツレヘムへ長い旅をすることになったヨセフさんとお腹の大きなマリアさん。ロバに乗って旅をするなんて、普通だったら絶対しないことですが、それが神さまのご計画でした。

そうして長く苦しい旅をしてヨセフさんとマリアさんは、やっとの思いで、ベツレヘムの街にたどり着きました。疲れはてた、マリアさんとヨセフさんは、泊まる場所を探しました。「すみません、今夜泊めてください」「ダメダメ、いっぱいだよ」。どこを訪ねても泊めてくれる人はいません。神の御子イエスさまがお生まれになるのに、誰一人として「暖かなお家へどうぞ」とは言いませんでした。イエスさまを受け入れようとはしない、ベツレヘムの人たち。これは自分のことばかり考えてイエスさまを受け入れようとしらない私たち人間の心にも似ているかもしれませんね。

こうして、イエスさまは、暗い馬小屋でお生まれになりました。私たちが知っているような、クリスマスの華やかで綺麗な飾りつけは全くない、暗い馬小屋です。人間の冷たさ、神の御子イエスさまをお迎えする気持ちなんてどこにもない、そういう人間の罪の中に、イエスさまはお生まれになったのです。なぜなら、そんな場所こそ、救い主の誕生が必要だったからです。この世界で、痛みや悲しみ、汚れや罪にあふれた人、暗闇の中にいる人に寄り添い、神さまの救いを与える方として、お生まれになったのです。

このクリスマス、私たちの一番大切なことは、心の中に最高のお客さまとして、喜びをもってイエスさまをお迎えすることです。心の扉を開いて、どうかイエスさま私の心にお入りください、とお祈りをしましょう。



(おはなし 岩野牧人)